

Peace Now! 2025

No.8

開催報告 PeaceNow!2025

3地域共通テーマ

終戦・被爆**80**年の今、私たちが**語りなおす**

開催日：9月2日（火）～4日（木）

開催県：広島、長崎、沖縄（3地域同時開催）

参加者：合計**131**名（運営込み）

ご参加ありがとうございました！

以下内訳

広島 49名

釧路公立大（1）岩手大（1）山形大（2）東北大（1）東京大（3）日本女子大（1）法政大（3）信州大（1）宇都宮大（1）茨城キリスト教学園大（1）東京ブロック事務局（1）岐阜大（1）同志社大（2）奈良女子大（1）近畿大（3）広島大（5）広島修道大（2）福山市立大（1）山口大（1）山口県立大（1）松山大（1）愛媛大（3）徳島大（3）中国・四国ブロック事務局（4）九州ブロック事務局（1）連合会（4）

長崎 40名

釧路公立大（1）宇都宮大（1）茨城大（2）東京ブロック事務局（3）岐阜市立女子短期大（1）東海ブロック事務局（1）同志社大（1）立命館大（2）龍谷大（2）京都教育大（1）奈良女子大（1）奈良教育大（1）近畿大（2）関西北陸ブロック事務局（2）岡山大（1）山口大（1）島根大（2）高知県立大・高知工科大（3）中国・四国ブロック事務局（1）九州大（1）長崎大（1）長崎県立大シーボルト校（3）熊本大（1）九州ブロック事務局（1）連合会（4）

沖縄 42名

釧路公立大（2）弘前大（2）岩手大（3）山形大（2）東北学院大（1）慶応義塾大（1）東京芸術大（1）十文字学園女子大（2）東京インターカレッジ（1）信州大（1）東京ブロック事務局（1）名古屋大（1）同志社大（1）立命館大（2）奈良女子大（1）奈良教育大（1）近畿大（2）大阪樟蔭女子大（1）関西北陸ブロック事務局（2）島根大（2）中国・四国ブロック事務局（1）長崎県立大佐世保校（2）大分大（1）沖縄大（1）九州ブロック事務局（3）連合会（4）

PeaceNow!Hiroshima

Day.1 企画①過去パート-被爆者講話と広島平和記念資料館見学-

過去に起きた事実とエピソードを知る

「戦争はむごい」



広島県原爆被害者団体協議会・被爆を語り継ぐ会の切明さんにお越しいただき、被爆当時の様子やこれまでのご経験をお話いただきました。

被爆した下級生の救護や火葬をしたというお話が非常に印象的だった。原爆は、人々の命や生活を奪っただけでなく、人間の尊厳をも奪うものであったのだと感じた。
(信州大1年)



広島平和記念資料館へ見学

Day.2 企画①後半,企画②現在パート-フィールドワーク-

多角的な視点から,平和を問いなおす

韓国原爆犠牲者慰霊碑で、最初は公園の外にあったが差別問題の観点から移設したという事実を聞き印象に残った。
(愛媛大2年)

日本人だけが原爆の被害者であるという偏見を持っていたが、韓国人も犠牲になっていることに驚きを覚えた。
(法政大2年)



Q.「戦争」に関してどのような立場をとりますか？

・戦争が起きたことによって生まれた技術や今の成り立ちがあることは否定できないし、起こったことによって私たちが今こうして学んでいることもあると思いますが、当時の人たちはそれで報われるのだろうか？という疑問が自分の中で生まれました。沢山の犠牲を生んだ上に私たちが今生きているということをもう一度立ち止まって考えなければいけないと思います。だから私は戦争に対しては中立という意見も理解できますが、否定的な立場を取ってしまうと思います。(近畿大1年)

16か所の遺構を実行委員がガイド ▶

Day.3 企画③未来パート

未来を担う私たちが考動する意味

考動する意味

▶考動する意味

この先
未来を担っていくのは私たちだから！

80年経った=先人たちが守り続けた
ということ。

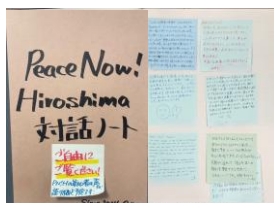


Q.戦後90年・100年と続く先に向けて何ができると思いますか？

・数値などのデータだけではなく、被爆した方の記憶も誰かに共有して伝えていくことです。(山形大1年)

・自分と異なる様々な立場を知ることが大切だと思いました。そのため、ニュースを積極的に見ることや、アルバイトやインターンでいろんな業種を体験してみるといいと思います。(東北大1年)

+ α 休憩時間を利用した取り組み



昨年度に引き続き平和への想いやPeaceNow!の感想を書く「対話ノート」を設置。今年度は**30**の感想が集まりました ✨ 来年度にも繋げていきます！



平和の願いを込めて鶴を折りました。3日間で**604羽**折られ、原爆の子の像に捧げてきました！

PeaceNow! Nagasaki

Day.1

長崎を知る フィールドワーク

参加者の多くが初めて長崎に来ました。まずは被爆当時・前の長崎を知り、その後、原爆資料館・平和祈念像、爆心地公園、追悼記念館をめぐり、長崎で起こったこと、その惨状を学びました。平和祈念像前ではその大きさと平和への思いの強さに感嘆の声が上がっていました。



Day.2

被爆者講話

2日目午前は実際に原爆の被害を体験した方からのお話「被爆者講話」を行いました。講話者は昨年もお願ひした八木道子さん。当時6歳だった八木さんから当時の状況や投下後の様子、人前で話すようになった経緯などをお話いただきました。八木さんは何度も「**長崎を最後の被爆地に**」の言葉を参加者に強く伝えました。

また、八木さんから山王神社の一本柱鳥居や城山小学校など、参加者が午後にフィールドワークに行く場所についても紹介いただき、参加者の興味や関心が高まりました。



2回目のフィールドワーク

2回目のフィールドワークは参加者からの希望をもとに、実行委員がルート組を行ったうえで実施しました。長崎は急勾配な地形のため、班によっては移動距離や急な坂道を上る人もいました。しかし、**自分の目で**原爆の被害や脅威を今に伝える被爆遺構を見て感じたことをメモする参加者の様子が見られました。

フィールドワーク後は参加者同士で感じたことを語り合い、二度と引き起こしてはいけない、自分が感じたことは語り継ぎたい、等の声がありました。



Day.3

互いに語り合う

3日目は**参加者同士で語り合う**ことをメインに、実行委員が用意した企画を基に学びを深めました。福山雅治さんの『クスノキ』の歌詞に込められた想いを考える企画②、被害だけでなく加害の側面についても考える企画③、核兵器保有について様々な国の立場になって考えディベートを行う企画④を行い、最後の企画⑤ではこれから自分たちが拓げる主体として自大学でどのように平和の想いを拓げるか話し合いました。



PeaceNow!Okinawa

Day.1 〈フィールド〉 平和祈念公園・資料館 〈企画〉 企画1『戦後80年、沖縄のいまを知る。』

沖縄の過去・今・未来を知る

およそ80年前に沖縄で何があったのか、数か月にわたる沖縄本島や周辺でどのような争いがあったのか、を資料館にて学びました。平和を希求し戦没者を追悼する様々な碑やモニュメントを通して沖縄の過去そして戦後を深く考えました。

企画では現在までの沖縄の歴史を整理しなおした後、今も残る基地や不発弾、教科書の記述といった課題について向き合いました。



Day.2 〈フィールド〉 糸数アブチラガマ／ひめゆり平和祈念資料館／旧海軍司令部壕 〈企画〉 企画2『自分にとっての平和』前半

様々な場所・人・時を知る

地下陣地・病院・住民の避難壕として使用されたガマ(自然洞窟)、ひめゆり学徒隊の沖縄戦体験を伝える資料館、日本の海軍の司令部として使用され約4,000人が壮絶な最後を遂げた防空壕、などを巡り、沖縄戦に関わる本島各地の状況や、一人ひとりに目を向け、当時の様子や戦後の取り組みを学びました。



“平和教育”を学ぶ

沖縄で平和教育を行う(株)さびら 狩俣日姫さんにお越しいただき、平和教育についてともに考えました。

今を戦前にしないために、敢えて戦争を引き起こすための施策を考えてみる平和学習プログラムを実践してみました。

伝え続けること考え続けることが大事だと思っていたがその手法について学ぶことや知ることは今までなかった。今まで受けてきた平和学習の概念をガラッと変えられた貴重な機会でした。

Day.3 〈企画〉 企画2『自分にとっての平和』後半／企画3『語りなおしゼミ～「自分の語り」を探す旅～』

“語りなおす”を深める

私たちにとっての平和とは何だろうか考え、私たちが同年代そして社会、次世代に平和・沖縄で起こった／起こっていることを語りなおし拡げていくために一人ひとりどんなことができるか考えました。

本やネットで知ったつもりになっていただけで、本当の沖縄や沖縄戦については自分は全く知らなかったんだと感じました。これからもう少し探求を進めたいです。

